

# おへぶん

社会福祉法人さざんか会法人広報誌「おへぶん第102号 2025 秋」

発行:さざんか会法人本部/船橋市行田 2-8-1/☎047-404-1135

編集:おへぶん編集委員会/けいよう/船橋市二和西 5-10-1/☎047-411-8177

久々に、船橋市より法人傘下の事業所が「実地指導」を受けました。指導監査課により、障害福祉サービス事業所が法令や様々な規程などを遵守しながら決められたサービスを滞りなく利用者各位に提供できているか、その確認であり、もし不備があれば改善に向けての指導を受けます。

今回の指摘事項に「個別支援計画の作成に係る会議に利用者が参加していない事例が…」とありました。昨年の報酬改定に伴い、個別支援計画の作成に関する会議へのご本人参加は原則であり、例えばご本人が発言することが困難な状況であっても、ご本人の状態を直接確認し、その意思や選択を推定することに努める、ということが求められています。このことの徹底に不備がある、と判断されたようです。

障害のある人の「意思決定支援」は近年の障害施策の重要課題となります。例えば、この国もとくに批准(平成26年)した「障害者権利条約」、その第19条は「自立した生活及び地域社会への包容」の見出しで「障害のある人がどこで誰と生活するかを選択する機会を有する」とあります。それは、ご本人が自らの意思により決めることであると解します。第19条をはじめ、権利条約は全般に自らの意思による生活の実現を期すという思いがちりばめられている、と思っ

社会福祉法人さざんか会 理事長 宮代 隆治

## 『ねえ、聞いて』

### おへぶん 102 号目次

P 1 「ねえ、聞いて」  
さざんか会 理事長 宮代隆治

P 3 北総の里だより  
・北総育成園  
・笹川なずな工房

P 7 各事業所だより  
・のまる  
・けいよう  
・ゆたか福祉苑  
・カメラアハウス  
・グループホーム  
・とらのこキッズ  
・さざんかキッズ

P11 後援会だより



ていますが、全くの真逆というか、無視というか、障がいのある本人の意思を一顧だにしない施策が続いていました。当時、知的障がいのある人たちが、一番多く利用していたのが「更生施設」でした。その背景には、旧態依然たる障害者観がありました。障害は軽減、克服すべきものであり、結果社会復帰を目指さなければならぬ、と。更生施設の機能役割は指導や訓練を通してその目的を遂行し、実現することが当然視されていました。そのことを認識し、自らの意思として施設を利用する障がいのある人は、果たしてどの位いらしたのでしょいか。あるお母さんのご意見を伺ったことがありました。「何でうちの子は、更生させられなければならないのでしょうか?」今も耳に残っています。

長崎県雲仙市に「南高愛隣会

”という法人があります。以前そこに田島良昭理事長がいらっしやいました。当時、積極的にグループホームを展開し、障がいのある人の職場を作ったり、利用する人の結婚や育児を支えたり、とにかく時代に先駆けた実

践がありました。一度、「ゆたか福祉苑」に来ていただき、職員の研究に講演をお願いしたことがありました。その時のお話しです。「この国は、おかしなことが罷り通っています。野球でいうと、ピッチャーと審判を同じ人がやっている。投げられた球、いつの間にかピッチャーが審判役に回り、ストライク、ボールと判定しています」と。つまりは、当時常識であった障害施策と行政の関係、そしてそこにおける障がい当事者の位置、その思いを語られたのだと思いました。本人の意思には思いが及ばず作られ、実行される障害福祉施策がありました。



「意思」とは何でしょう。大雑把で抽象的ではありますが、「思い」としてみます。「好き」とか「嫌い」。「悔しい」とか「怖い」。「嬉しい」とか「欲しい」とか。私たちは意識するしないに関わらず、常日頃こんな思いを持ちます。これは、障がいの有無に関係ないものだと思います。「何言ってるか分からない」とか「言ってもどうせ理解できない」、だから…、ではないのです。貴方の通う〇〇園、毎日の送迎や日中の活動、昼食や折に触れてのイベント参加、排泄に関することや健康管理等についてご本人の「係わり」の状況を正確に把握した上で、支援計画を作成します。それをご本人やご家族に提示しながら、ご意見を伺い、よりご本人の希望に沿う形で練り上げたものです。ただ、できることとできないこともありましよう。できないことには、なぜできないのか、丁寧な説明が求められます。また、ご本人の意思を確かめるに、様々な創意工夫が求められます。同時に、多くのコミュニケーションの苦手な人たちと、日々時間や場面を共有する支援者の役割が

試されます。何より、その人の意思を理解する立場にあるのですから。

「個別支援計画の作成に係る会議に利用者が参加」は、単にそこに居れば良いではありません。形だけ整えれば、それで良いという意味がありません。支援する側は、あの手この手でご本人の意思を引き出し、汲み取る作業が必須となります。



以前にも引用しましたが、「Nothing About Us Without Us」、「私たちのことを、私たち抜きに決めないで」は、障害者権利条約のスローガンです。個別支援計画に限らず、社会の諸相にこの言葉が尊重され浸透することが望まれますし、私たちはもっと、障がいのある人の思いを傾聴しなければなりません。

# 北総の里だより

## 【北総育成園】

### 一泊旅行と日帰り旅行を実施して

実行委員長（支援主任） 菅谷大輔

9月17日18日に大洗・つくば方面へ職員利用者27名で一泊旅行を実施しました。北総では、長年親子旅行や作業班旅行を実施してきました。日頃のお互いの労を労い、色々な観光地を巡り、その土地のおいしい食事を楽しんできました。入所施設の中だけでは体験できない行事として利用者職員ともに大切に実施してきました。ところがコロナ禍や利用者さん高齢化重度化への対応もあり、旅行を実施するのが6年振りとなりました。この間利用者さんからも旅行の再開を願う声が多くありました。

今年度当初から計画を進め、行き先地選びや宿選びなどなるべく希望に添えるように段取り、

計画を進めていきました。利用者説明会では「温泉がいいな」「お刺身食べたい」「遊園地」「沼津に行きたい」「バスに乗りたくない」等多くの意見が出ていました。事前説明会ではプロジェクトで映像を見て頂くと皆さんイメージも膨らんだようで、楽しみな様子の笑顔が溢れていました。旅行1日目まだまだ暑さが残る快晴に恵まれ、大型バスに揺られ、参加利用者さんも窓の景色を眺めながらバスレクも楽しみ一路大洗アクアワールドへ。久しぶりの水族館に心躍る方もいれば、少し暗がりの中を進む場所にドキドキしてしまう方、

魚や海の動物よりもコーヒーを楽しみたい方とそれぞれが時間を満喫してくれていました。最後はアクアワールドで一番メインのイルカ・アシカショー。パフオーマーの飼育員さんと息の合ったイルカ・アシカショーに驚嘆と笑いに拍手喝采。観覧を終えその後旅館へ。

そして旅行の一番の楽しみは宴会です。コロナで旅館業界も変化があり宴会場を持つ旅館も減り宿選びでは四苦八苦しました。それでも利用したホテルは大変丁寧に対応してくれ、利用者さんからも大変好評で一夜を過ごす事ができました。おいしい食事やお酒やデザート、カラオケも目一杯楽しみました。

2日目はつくばに向かい、JAXA宇宙センターへ。ここには職員も利用者も皆が初めてで、

普段まず触れる機会のない打ち上げ衛星やロケットから宇宙について身近に感じられる時間となりました（ちょっと難しかった）。楽しい時間はあっという間の2日間ではありましたが、何とか無事に旅を終え、参加した利用者さんからもまた来年行きたいと満面の笑顔で応えてくれた。大成功で終える事ができました。

また24日には日帰り旅行としてこちらは職員利用者26名で、同じくアクアワールドに行ってきました。みんなと遠出して楽しむことを大切にと、職員もバスレクから沢山盛り上げて外出を楽しんでました。バスレクでは、参加しない職員にも写真やアイデアで協力頂き、利用者さんにも分かりやすい企画を用意できました。こちらの組でも普段見ない魚や海洋動物と近い距離でたくさん見学できたことに大変喜んでくれていました。

こうして利用者さんの笑顔が見られて実行委員会一同、企画して良かったと安堵しました。



職員からも「一緒に楽しめて良かった」「仕事の励みとなった」との感想を口々に語ってくれました。これからも益々、利用者さんに喜んでもらえる取り組みをしていきたいと思えます。そしてまた来年も楽しく旅行ができるよう、日々の暮らしを大切に支援していきたいと思えます。



## 一泊旅行 9/17-18



## 日帰り 旅行 9/24





## 【笹川なずな工房】

### 「防災の秋」 なずな工房引き渡し訓練

支援主任 圓城寺 央

今年もようやく長い夏が終わり、工房周りも秋を感じる季節になってきたかと思えば雨が続き、急に寒くなったり、秋を感じる間もないまま冬を迎えそうです。

今年は幸いにして台風関連の大きな被害もなく事業運営ができています。私自身なずな工房の防火管理者、防災委員に長く携わっています。記憶に大きい災害では平成23年の東日本大震災、令和元年千葉県に上陸した台風15号が鮮明にあります。幸いにしてどちらの災害も利用者さんの安全を含め、大きな被害には至りませんでした。停電の影響で復旧に3日を要しました。その中で垣間見えた利用者さんの様子も様々で災害時などイレギュラーな事態に自分の生活ルーティンを変える事ができなかったり、環境変化への対応が難しくなる方もいます。

なずな工房でも毎月避難訓練を月ごとに火災想定、地震想定に分けて実施しています。訓練という認識ができず、避難誘導が難しく個別の対応が必要なケースもあります。そんな課題を抱えながら、その時ベストな対応を模索しながら利用者さんと向き合っています。今後も毎月の避難訓練を通じて繰り返し必要な事を伝え利用者さんの防災意識を高め緊急時に対応できる力を養っていきたいと考えます。



その一つとして8月に引き渡し訓練を実施しました。地震想定にて事業運営中に震度5強の地震発生、各家庭へ連絡の上、施設への迎えを要請し家庭への引き渡し迄を訓練しました。なずな工房は立地上、職員・利用者さん含め通勤・通所に車は欠かせません。殆どの利用者さんが送迎サービスを利用している通所となりますので、送迎が難しいと判断した場合は各家庭に迎えを要請するケースもあります。

今年度の年間予定の一つとして、4月から職員間で話し合いを持ち、家庭へ情報を周知し準備を進めてきました。とにかく初めての試みですので学校関係、施設などの訓練を参考にしながら流れを組み立てました。保護者の方には緊急連絡先の再度確認、引き渡し時、迎えに来られる方の事前登録など資料の提出をお願いさせて頂き準備してきました。職員間でもミーティングを重ね、前日には模擬車両を走行させながら車両の誘導、各担当ごとの役割を確認しながらシミュレーションをしました。

当日は暑さ厳しい中での訓練となりました。防災委員の「地震

だー」の声を合図に引き渡し訓練がスタート。日頃の訓練の成果もあり利用者さんの多くは机の下に身を隠し、頭を保護し、低い姿勢を保持する事ができています。待機場所に移動してから利用者さんは迎えが来るまで待機となります。長い方では迎えが来るまで2時間近く待つ方もいましたが、実際の災害時を考えると待機、何もない状態で過ごす時間が多くあることは想定できるので、今回利用者さんは「待つ事の訓練」も大事な要素として取り入れました。固定電話不通を想定し、職員は施設の送迎用携帯4台と施設携帯1台、合計5台の電話を使い各家庭へ連絡しました。事前に電話連絡で伝えるポイントも職員間で共有しながら引き渡しを行う旨を伝え迎え要請となります。施設までの道中は田んぼ道が多く道幅も狭いので、すれ違いが難しい箇所もある事を考慮し施設前の道路を一方通行のルールで一般車両の往来にも注意を払いながら車両の誘導を行いました。職員も車両誘導係、利用者さん待機場所把握、引き渡し係と各担当ごとに分かれ1台ずつ車両

誘導、本人確認を行いながら引き渡しを行いました。安全上の観点から利用者さんの引き渡しは事前に3班に分け、それぞれの班ごとに迎えの時間差をつけながらの対応としました。職員も炎天下での引き渡し訓練となりましたので間で水分補給など熱中症対策も欠かす事なく取り組みました。利用者さんも落ち着いて職員の話を聞いて迎えを待つ事ができました。保護者の方の中にはオンデマンドタクシー、介護タクシーを利用して迎えに来て下さる方もいました。



今回の訓練へのご理解、ご協力に感謝します。後日、保護者の方からも感想を頂きました。その中のいくつかをご紹介します。

①初めての試みいざという時の心構えにもなりました。

②なすな工房は山の下でもあるので状況に依拠しては2番目の安全な場所もあったら良いなと思いました。(近隣の小中学校など)

③災害時での引き渡し、よりハードな環境下が予測されるので悪天候時などの引き渡しのシミュレーションも必要かと思う。等々保護者目線で貴重なご意見を頂きました。もちろん災害は無いに越したことはありませんが、近年はゲリラ豪雨、線状降水帯など水害関連も多くあります。我々、障害者支援施設もBCP(業務継続計画)を発動し自然災害、感染症などが発生した際、事業の継続、早期復旧を目指す事、備蓄品の準備、施設としても災害や感染症へ強くなる事が求められています。来たるべき災害時に備え今回は利用者さん、保護者、職員が一つになり実施する事ができた訓練だと思えます。今後利用者さん、職員の安全を守りながら防災意識の向上に繋げて行きたいと思います。



引き渡し時の様子



車両誘導の様子



備蓄品関係



地震訓練にて机の下に隠れる利用者さん



# のまる

夏の暑さが遠のいていき、冬の寒さが徐々に近づいてきましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。のまるの皆様は外出しやすい気温になってきたため、様々な場所へ外出したり、ユニット内で休日を楽しんだりと各々休日を楽しまれています。そんな利用者さんたちの生活の一部を今回のおーぷんではお伝え出来ればと思います。

涼しくなってきたとはいえ、まだまだ暑い日もあるので、そんな日は室内でキーンと冷えたチューペットサイダーを飲んで過ごしました。皆さんとても美味しそうに飲まれています。あっという間に飲み終えてしまいました。



外も徐々に涼しくなり、絶好のお出かけ日和が増えてきています！お散歩やドライブ、お外で外食やちょっとしたおやつを召し上がったたり…。お外で食べるとまた違った美味しさがあり、皆さん良い笑顔を見せて下さっています。今後はどんどん冬に向けて寒くなっていきますが、風邪に気を付けながら、利用者さん共々元気に楽しんでいます。健康に過ごしていけるように努めてまいります。





# けい い よう

8月29日にホールにて、夏祭りを開催しました。

利用者の皆さんは、音楽に合わせて楽しそうに体を動かしたり、班対抗のあてゲームを楽しみました。紙を丸めたものをボールに見立て、狙いを定め、力を込めてボールを投げました。優勝したのは新聞班でした!!

身体を動かした後は、食堂で冷たいアイスを召し上がり、涼しいひとときを過ごしました。

今年の夏の思い出を作ることが出来ました。

# けい い よう



# ゆたか福祉苑

すっかり冬へと向かっている陽気となりました。ゆたか福祉苑では、秋まつりを開催しました。玉入れをして皆さん大健闘でたくさん身体を動かされ、キッチンカーの「季珈琲」さんにもお越しいただき、珈琲の香りや美味しいスイーツと飲み物で身体の中から温まりとても楽しまれました。午後はサックス奏者の方をお招きし、素敵な生演奏と歌を披露して頂き目を輝かせリズムに乗って楽しく鑑賞されている様子を音楽の秋を感じました。これから寒さも厳しくなりますが、皆さんと楽しく乗り越えていきたいと思えます。





# カメラリアハウス



やっと暑さも和らぎ過ごしやすい気候になってきましたね。  
10月の開所日は、少し遅めの夏祭りを開催しました。  
装飾などグループごとに準備を進め、当日は皆さんにチケットを配布してそれを持って各場所へ。今年はご利用者さんが作ったお面コーナーもあり、皆でつけてお祭りを楽しみました♪



いらっしやいませ！



はい、どーぞ！



焼きそばください！



焼きそばを作りました！



## ホーム便り

今回はグループホームたんごに新しく入居された利用者様の紹介と誕生日を迎えられた皆様の様子をお送りします。



グループホームたんごに新しくご利用者様をお迎えしました。  
お名前は「末廣和之さん」です。  
新しいホームで緊張されるかな？と思いましたが、最初からニコニコと良い笑顔が見られスタッフと会話を楽しまれています。ブロックが大好きで納得のいくものができる「出来たー」と元気よくスタッフに教えてくれいつも明るく、スタッフも元気をもらっています。

皆様を紹介していきます。

誕生日といったらやはりケーキということ、大きなケーキを希望される方もいればチョコやショートケーキ、チーズケーキなど色々な味を楽しみたい方など様々でした。甘いケーキを皆さん笑顔で召し上がられていました。



誕生日おめでとうございます。  
これからもずっとお元気でいてください。

# とらのこキッズ



朝晩の気温が下がり、本格的に冬の季節が近づいてきましたね。とらのこキッズではお楽しみ会を開催し、沢山の家族の皆さんに来ていただきました😊



エアートランポリン・キラキラな部屋をはじめ、新聞紙遊び・サーキット・製作など普段の活動を少しパワーアップさせたコーナーや各コーナーに行き、シールを集めるスタンプラリーも行ないました😊いつもとは違う雰囲気にとドキしたり、思い切り楽しんでいたり、色々な表情を見ることができました😊



## むずんかキッズおもいで



暑かった夏も過ぎ、一気に肌寒さを感じる季節になりましたね。この秋行われた親子行事「からだであそぼー」をご紹介します。さざんかキッズ内の各クラスを遊び場として、スタンプ製作やサーキット、段ボール迷路にボールサーフィン等のいろいろなコーナーを設けておうちの人と一緒に遊びました。いつもとは違う雰囲気にドキ・ワクワク♪全力で楽しむ子どもたちの声が、さざんかキッズに響いていました☆



おとうさんと一緒に！



サーキットはママ達よりも上手だよ



迷路にはまって大興奮



# 後援会だより

令和7年6月11日（水）薬円台公民館にて令和7年度さざんか会後援会総会が開催されました。

総会の後、第二部として行われました、社会福祉法人さざんか会宮代理事長をはじめ各事業所の管理者の方々とのシンポジウムについて報告します。

## 【社会福祉法人さざんか会

### 宮代 隆治 理事長】

令和7年度事業計画について今年度は4つの目標を定めて取り組んで参ります。

- ①『財政基盤をより強固に』
- ②『事業の整理とこれからの事業について』
- ③『研修の充実（人材育成の強化）』
- ④『事故の防止について』

以上を法人全体として取り組んでいきたい。人員不足を解消し、人材確保そして幅を持たせた基盤を持った事業運営を目指したい。

## 【北総育成園

### 白樫 久子 施設長】

開設51年目を迎え、利用者の高齢化に伴い、介護の技術や知識の習得および、医療との連携も重要になっています。

居室にご家族の写真や若い頃の写真を飾ることで、それを見る職員も自然と敬いの気持ちで支援させていただいています。

船橋の方々とも短期入所を通じて多くの関わりを持たせていただいています。

## 【とらのこキッズ

### 中川 公一 園長】

開設20年目を迎え、とらのこキッズ、さざんかキッズの卒園生が大きく成長されている様子に、相談支援の業務を通じて関わらせていただき、嬉しく思っています。

現在、業務の効率化に向けたICT導入の検討をはじめ、職員の働きやすさの工夫に取り組みんでおり、魅力ある職場づくりを進めています。

## 【さざんかキッズ

### 奥山 裕美 園長】

児童発達支援センターの中核機能として、さざんかキッズのお子様だけではなく、外部のお子様や他事業所を繋いでいく役割も担っています。

保育所等訪問支援では、地域の幼稚園や保育園へ訪問し、インクルーシブ・ノーマライゼーションの理念に基づく相談、助言を行っています。

また、船橋市内の児童発達支援事業所との連携会議を定期的で開催しています。

## 【けいよう

### 古川 世志恵 施設長】

けいようは定員40名のところ、現在の契約者は33名です。

近年はスタッフ不足が続く、行事や散歩の活動が減っていましたが、昨年度より男性スタッフが増え、活動の幅が少しずつ広がっており、行事も再開予定です。また、コロナ前まで月1回のペースで来てもらっていたギターボランティアも5年ぶりに再開しました。

利用者の高齢化に伴い、室内での体操やカラオケなど、体力を使わなくても十分に楽しんで

いただける企画を組み入れていきます。

## 【ゆたか福祉苑

### 尾村 勉 施設長】

昨年度、残念ながらご利用を終了された方が5名いらっしゃり、そのうちの4名は、入所施設およびグループホームへの転居が理由で、通所事業所の立ち位置について歯がゆさを覚えるとともに、利用者様の日常がいかに生活基盤を支えに成立しているかを痛感しています。

必要とされる通所事業所であり続けるためには、利用者様にとってどのような居場所であるのかが重要で、ご利用いただく誰にとっても肯定的で安心の場であること、個人の意思が尊重され、ご本人らしさを存分に発揮いただける場であることを引き続き目指していきます。

## 【カメリアハウス

### 藤敷 正英 施設長】

多機能事業所として、現在の利用者数は、生活介護37名、就労継続支援B型14名、合計51名です。皆様の出席率も良く、規模からすると新規利用の相談に応じにくくなっている、もどかしさを感じています。

就労継続支援B型の方は、主にパウンドケーキ作りを行っています。生活介護含めた事業所全体のメインの収入源は地域新聞のポスティングで、暑い日でも雨の日でも変わりなく配るので、皆様も濡れた新聞を見たら「そういう事なんだ」と思ってください。

コロナ禍で控えていた外出行事を、再開していきたいです。

## 【のまる】

### 岩佐 龍哉 施設長

のまる開設25年になります。

施設入所支援、生活介護、短期入所、日中一時支援、相談支援の各事業を行っております。また、船橋市と福祉避難所の締結をしており、大きな災害時に一般の避難所で過ごすことが困難な方の受け入れ先として協力を行います。

医療との連携に力を入れており、訪問診療や掛かりつけ薬剤師と24時間連絡が取れる体制づくりを行いました。

前年度の離職者が0ということとで、職員定着の取組みの成果が見られており、引き続き電子記録の導入等の負担軽減に取り組んで参ります。

## 【笹川なずな工房】

### 羽生 真弓 施設長

北総育成園に通所利用されていた方を対象に、周辺3市町村の要望と協力を受けて設立された23年目の多機能事業所です。なずな工房から見える景色は田んぼ一面で、日本家屋を基調にした造りから、旅館やうなぎ料理店に間違われることも…

生活介護では、今年豊作のジャガイモなどの畑仕事をはじめ、5年前に移植したブルーベリーの初収穫が今か今かと迫っています。

就労継続支援B型の方は、パン作りとジャムづくりの一方で、北総育成園で栽培したらつきょうの加工作業をしています。

販売経路が多岐に渡るため、保護者の方々にご協力いただいています。また、一つ一つ23年かけて築いたやり取りから農家さんにも信頼いただき、地域に根差した生産活動を実感しています。

## 【グループホーム野の花】

### 興梠 孝 管理者

平成27年9月に開設した10年目のグループホームです。笹川なずな工房敷地の隣りに所在

し、入居者6名中5名の方が笹川なずな工房に通所しています。

1名の方は銚子市の醤油会社で障害者雇用で就労されており、本数の少ない東庄町のバス、電車で遅れることなく通勤されています。企業側も、有給がきちんと取れるよう連絡をくれるなど、福利厚生も手厚く安心です。

世話人の方々は、幅広い年齢の利用者に合わせた個々のケアを模索しながら、地域の肝っ玉母ちゃんのように面倒見よく支援してくれています。

## 【DDホームズ】

### 田子森 美洋子 管理者

DDホームズの管理者を昨年度途中より引き継いでいます。

今年度当初にグループホーム1か所を閉鎖しました。例えば既存のホームに空室が出たとしても、建物の老朽化や構造上の不便さから、これから高齢に向かい介助が必要になる方に安心して住んでいただくのが難しいといった問題があります。

それから、相談支援の制度が始まる前からグループホームに入居され、セルフプランのまま継続されている方に、保護者会で計画相談のご紹介をしました。

ご家族の高齢化を前に、成年後見人もお考え下さいとご案内しています。

## 【のまのまホームズ】

### 奥野 太平 管理者

のまのまホームズは、のまるで生活されていた方々を中心に立ち上げたグループホーム事業で、現在、5ホームで27名の方が生活しています。

職員募集がなかなか難しい状況ですが、今働いている職員に聞くと、働きやすくて楽しい職場と言ってくれているので、この良さが伝わればいいなと思っています。

安心安全な暮らしという所では、医療面が一番重視するところ。昨年度、訪問医療の事業所と契約し、24時間対応可能なオンコールサービスと月2回の訪問による健康管理をおこなっています。

昨年度大きく報じられたグループの問題もあり、制度化された『地域連携推進会議』が重要視されていますが、地域の方々にホーム見学いただいたり知っていたり努力をしていきたいと思っています。